

市民と市長との対話集会（テーマ：通年観光） 高田エリア  
主な意見交換の内容

開催日：令和5年8月30日（水）

会場：福祉交流プラザ 3階 第6会議室

参加者：27人

テーマ：前半「城下町高田（町家と雁木）」、後半「城下町高田（寺町の寺社群）」

-前半「城下町高田（町家と雁木）」-

（参加者）

- ・あすとびあ高田やシェアハウス大町の現状はどうなっているか。
- ・通年観光と言って、新しい動きをしようとしているが、今までにやってきたことはしっかり維持されているのか、やりっ放しになっていないか。
- ・施設の維持にはお金がかかる。市民の税金で負担していることをよく考えていただきたい。

（市長）

- ・あすとびあ高田についてはミューゼ雪小町やコンビニエンスストア、会社も入っており、大いに活用いただいていると思っている。シェアハウスについてはいろいろな方がお住まいになっていると聞いている。空き家になっている雁木町家もあるので、そういった活用の仕方をこれからも進めていきたい。

（総務部長）

- ・シェアハウス大町は定員5人で、現在3人が入居している。

（参加者）

- ・ターゲットにする観光客は、国内の方なのか、海外の方なのか。
- ・海外の方々からは、寺町などの寺社仏閣には興味がない、歴史的建造物は京都、奈良、鎌倉などで十分だと聞く。海外の方にわざわざ来ていただくレベルではないのではないか。
- ・県地域振興局主催のセミナーで、パネルディスカッションの登壇者が「上越市には特にアピールするところはない」と発言していた。インバウンドについても「妙高市にぶら下がっているだけ」と言っていた。インバウンドに対してのやる気がどうにも見えてこない。

**(市長)**

- ・誰にどういう内容を訴えていくかという話だと思う。
- ・日本人もそうだし、外国の方々もそうだが、雪を知らない、雪国を知らない人たちに、この雪国・高田の文化を知っていただきたい。

**(参加者)**

- ・インバウンド客は、5年、10年先には高田に来ると思う。
- ・まずは市民から市内のいろいろな所へ行って、自分たちの地域はいいところだなと思ってもらう、そういう交流の仕組みを作れば、他の地域にも良さが伝わっていくのではないかな。

**(市長)**

- ・地域に住む人達が自分たちの地域を愛して、それを外の人に知っていただきたいというのが原点だと思っている。第一にやらなければならないことと思っている。

**(参加者)**

- ・今までは、イベントが終わるとそれで終わりだったので、通年観光ができればよいとずっと思っていた。
- ・高田の歴史文化はもちろん素晴らしいが、観光と食は絶対に切り離せない。
- ・上越にはサメの食文化があるが、上越にサメを食べに、年間でかなりの人が来ている。食を求める人をもう少しターゲットに考えてもらいたい。

**(参加者)**

- ・新潟、上越の魅力は酒、米が一番だと思っているが、米を観光資源として認識していないと思う。
- ・米を食べたいというニーズはすごく多い。日本一おいしいお米が食べられる場所というコンセプトも一つだと思う。

**(市長)**

- ・雪を見たことがない人は世界中にも日本にもたくさんいるので、そういった方々の受入れと食の連携は必要と考える。
- ・ご飯がおいしいというのは間違いないことで、ふるさと納税でも一番米が選ばれている。皆さんから米を食べていただきたい。
- ・上越の発酵文化を大事にして食をPRしていくことも大切。
- ・サメの文化もこれから調べて強調していかなければと思う。

(参加者)

- ・ 通年観光に期待している。
- ・ 観光は発信が一番肝心。
- ・ 高田は観光資源がありすぎる。高田エリアのオンリーワン、全国に類を見ないものを簡潔に発信することが大事。
- ・ 市民一人ひとりが自分で魅力を認識して、伝えたいという気持ちが高まらない限り、通年観光は難しい。
- ・ 高田の街並みの根底には「極楽浄土」があると思う。城下町高田の最大のフレーズは「祈りの城下町」。

(市長)

- ・ この地域の歴史文化を皆さんとさらに深め合いながら、進んでいければと思っている。

(参加者)

- ・ 民泊業を営んでいるが、時期は関係なく問い合わせがある。みんな既にそれぞれで1年を通して観光をやっている。通年観光を市の政策として掲げる理由が分からない。
- ・ 季節型観光と通年観光との違いを説明してほしい。

(参加者)

- ・ いきなり通年観光の計画づくりではなく、まずは、市民の観光に対する意識付けが先ではないか。

(市長)

- ・ 観桜会や謙信公祭の時期は一時的に宿泊は増えるかもしれないが、通年で考えるとビジネスユースの割合が多い。
- ・ 大河ドラマ「天地人」の時、春日山を訪れた7割の方が「もう二度と来ない」という反応だった。人を受け入れる体制が全くできていなかったと思う。春日山には、見て、食べて、土産を買えるところを作っていきたい。
- ・ 特に高田の場合は、豪雪に耐えてきた文化をきちんと見ていただけるように準備しなければいけない。

(参加者)

- ・ 通年観光の目標として、数値的な指標を聞きたい。

(市長)

- ・ オーバーツーリズムにならないように、できるだけたくさんの人に来ていただきたい。

- ・一つのわかりやすい目標としては、上越妙高駅に「かがやき」を停めることを考えている。

**(参加者)**

- ・一番インパクトがあるのは高田城址公園の桜。通年観光の考え方はいいと思うが、ぜひそこに「桜」を盛り込んでいただきたい。

**(市長)**

- ・今の上越市の観光は、常に高田の桜がトップに出てくるので、大いに活用しているところである。

**(参加者)**

- ・オーバーツーリズムにならないように、でもできるだけ来訪者を増やすということができれば、苦労はしない。
- ・あえてあまり混雑していないところを旅行したい人の需要はある。それを消そうとするのは、観光客にとって不幸なことだと思う。結局お金を稼ぎたいだけなのか。
- ・「かがやき」が停まることと、通年観光地であることは関係がない。的外れだ。

**(市長)**

- ・新幹線の話は分かりやすい表現をしたものである。
- ・今までの生活が崩れてしまうというのは、どこの観光地でもありえることだが、この地域がこれからも持続していくための一つの手法として、「通年観光」を公約に掲げ、取組を進めているところである。
- ・あくまで、歴史文化を繋いでいくことが目的であり、ご理解いただきたい。

**(参加者)**

- ・いくら市長が旗を振っても、市民がついてこなければ計画は成り立たない。市民が観光に目覚めるような取組を行うのか。

**(市長)**

- ・自分たちの地域のことを、地元の人達がまず愛して、それを市外の人に伝えていきたいという気持ちになることが、私は一番大切だと思う。それが、歴史文化の継承に繋がる。
- ・観光ありきで、歴史文化を継承していこうということではない。

(参加者)

- ・地元の通常の生活が立ちゆかなくなることはどこの観光地もでもあると言ったが、それを甘受しろというのか。自分はこの町での暮らしが大好きで、今の生活環境を崩されたくない。
- ・通年観光には絶対反対。

(市長)

- ・公約に掲げて、皆さんの賛同を得ながらやってきたことである。
- ・今回の参加者の中にも賛同してくださる方が何人もおられる。
- ・歴史文化が次の世代へ継承されるように通年観光を目指していく。

(参加者)

- ・警女ミュージアムはお客様の9割が県外から来ている。
- ・おいしい米が食べられる場所、発酵食品を使った食事が食べられる場所を聞かれても思い当たるところがない。県外へお客さんを逃がしている。
- ・旧今井染物屋、高田小町は、建物は素晴らしいが、何を伝えようとしているのかが分からないため、ただ建物があっただけと言われてしまう。
- ・状態の良い空き家を活用して、1日も早く手を打っていかないと、町家も駄目になり、客も逃げていく。

(市長)

- ・市施設での解説が足りないのは大きな課題。しっかり対応していきたい。

-後半「城下町高田（寺町の寺社群）」-

(参加者)

- ・寺と花は相性が良い。
- ・一寺一花として、周辺住民も巻き込んで「花の寺町」ということでまとめ上げたらどうか。

(参加者)

- ・寺町で何を観光の売りにしていくかというのがいまいち見えない。お寺が荒れた状態になっているところも多い。
- ・何が面白いのか、何が優れているのか、説明がほしい。

(参加者)

- ・お寺で観光を考えた時に、やはりコンテンツであり、一番強いのは、親鸞聖人の足跡を

たどるような着地型ツアーだと思う。

- そのような取り組みの中で、地域の合意形成や、観光に対する思いの醸成を進めていくのがよいのではないか。

**(参加者)**

- 寺町は観光的な寺社・仏閣がなく、訪れた人も境内に入っていか迷ってしまう。
- まずはウェルカムな状況を作ることが重要。オープンガーデンをやって、自由に見ることが出来る状況を作るのが現実的だと思う。

**(市長)**

- もともと寺町2丁目、3丁目の皆さんが活発にイベント行っているので、その方々と相談をしながら、どういうまちづくりをしていったらいいか、考えていきたい。
- 花を利用してウェルカムな雰囲気を作るというのは、大切なことと思う。
- 親鸞聖人についても、五智地区に関係しているところも多いので、寺町と繋げると中身の濃いものになっていくと思う。

**(参加者)**

- 過去に、親鸞聖人の足跡を辿る提案を市にしたが、政教分離ということで断られた。
- その辺をきちんと整理してあるのか。

**(参加者)**

- 寺町の住民は通年観光を望んでいるのか。静かな生活を望む人もいる。
- 寺は宗教施設だと思うが、市長は違うものと捉えているのか。
- 通年観光をやっても、市や観光関係の業種は儲かるかもしれないが、自分は多分、儲からない。でも払う税金は同じである。
- 「政教分離だからできない」を撤回して、方針転換したという理解でよいか。

**(市長)**

- 寺は宗教施設だと思っている。
- ただ、寺そのものをどうこうというよりは、まちをどうしていくのかを考えていかなければいけないと思っている。
- どのような政策をやってもすべての人が幸せになる政策は、なかなか難しいと思う。
- 親鸞聖人の考え方に賛同する識者はたくさんいる。観光として活用できるものは活用していくべきと思っている。
- 親鸞聖人がここに上陸されて、いろいろな文化が広がっていったと思っているので、それをどうやって次の世代に広げていくかだと思う。

(参加者)

- ・ 高校生に聞くと、県外に出た時に地元の良いところを聞かれて、すぐに答えられないと言う。
- ・ まずは、自分たちが上越市内で楽しめるようになれば、自然と他県からも人が来てくれるのではないかとやっている。

(参加者)

- ・ 何回も行きたくなるような観光地は、やはり「人」。
- ・ ハード面だけではなく、地元で頑張っている人たちにもう少し経済的な支援をするなど、ソフト面にも目を向けていただきたい。

(市長)

- ・ 高校生の皆さんが上越市についてどう考えているかというのは非常に大事なテーマ。
- ・ 若い人たちの満足度を高めるために箱ものを整えるという政策は、これからの時代は違うと思う。
- ・ 地元で生活してきた人たちが、子ども達に昔からの歴史や文化を伝えて、地元を愛するという姿を一番に作らなければいけないと思っている。

(参加者)

- ・ 「通年観光」としたとき、冬が引っかかってしまう。
- ・ 高田城で雪が降った時、現状、中に入れない。橋の所も除雪されない。今ある施設を有効に活用するために、身近なところから受入環境を整えていただければと思う。

(市長)

- ・ 雪を見たことがない人たちに除雪をしている姿を見せるというのは一つの価値だと思う。
- ・ 冬が持っている価値そのものを生かしていかなければならないと思っている。

(参加者)

- ・ 「歴史文化の伝承」は非常に大事だが、具体的にどのように進めていくかが抜けている。
- ・ 「歴史文化の伝承」の意義を、一般市民がまずは知らないといけない。我々も一緒にやっていきたい。

(参加者)

- ・ 上越観光交流ビジョンの理念に「来訪者が市民の日常に溶け込み、楽しむ観光地域」と

書いてある。

- ・市民の暮らしが豊かになることが、市民の皆さんが求める観光のあり方、望むべきところだと感じる。

**(参加者)**

- ・今、話の中で、あまり寺町の魅力というものが出てこなかった。魅力満載の寺町のことを皆さんは知らない。
- ・ぜひ研究していただきたい。

**(市長)**

- ・専門性を持ってまちを見つめてくださっている方々が、まちの魅力が豊富にあると行ってくださったのは、本当に嬉しい。
- ・しっかりとその魅力を取りまとめて、誰にでもわかるような形にしながら、たくさんの人に知っていただけるよう、最大限努力を尽くしていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。